

自然災害伝承碑を知る

私たちの先人は自然災害の後、そのときの様子や教訓を石碑などに刻み、後世の私たちに遺してくれました。糸魚川市内にも慰霊碑などがあり、そのうち13基について国土地理院に登録され、地形図などにも掲載されています。「自然災害伝承碑」を知り、触れることで過去の自然災害の教訓を後世につなぐとともに日々の防災意識を高めていきましょう。

国土地理院に登録されている糸魚川市の自然災害伝承碑



1 玉ノ木地すべり災害受難者慰霊碑



2 柵口(ませぐち)なだれ災害受難者慰霊碑



3 蒲原沢土石流災害慰霊碑



4 勝山大雪崩遭難碑



5 勝山大雪崩慰霊碑



6 勝山大雪崩殉難碑



7 親不知殉難碑



8 大正十一年二月三日親不知殉難君碑



9 外波水害復興記念碑



10 県道山之坊大峰小滝線開設記念碑



11 戸倉山雪崩白池地蔵



12 小泊地すべり災害百霊廟



13 地に惨死者之碑

糸魚川市内の自然災害伝承碑一覧

自然災害伝承碑記号

基本情報			災害情報	伝承内容	地図		
碑名	建立年	所在地	災害名 (発生年月日)				
1 玉ノ木地すべり災害受難者慰霊碑	1988	新潟県糸魚川市大字市振(玉ノ木児童遊園)	玉ノ木地すべり災害(1985年2月15日)	昭和60年(1985)2月15日午後6時25分に、突如として玉ノ木地区の裏山で幅約70m、長さ約110mの地すべりが発生し、神社や尼寺、民家等が押しつぶされ、10名が死亡した。近くに「復興記念碑」も建てられている。	P80 B-1		
2 柵口(ませぐち)なだれ災害受難者慰霊碑	1986	新潟県糸魚川市大字柵口	柵口雪崩災害(1986年1月26日)	昭和61年(1986)1月26日の夜半、権現岳中腹で発生した表層雪崩により、ふもとの柵口(ませぐち)地区では一瞬のうちに住家とともに30数名がのみ込まれた。消防団、警察官、付近住民が必死に救出作業を行ったが、13名の命が奪われた。	P45 E-3		
3 蒲原沢土石流災害慰霊碑	1997	新潟県糸魚川市大字大所(国道148号沿い)	7.11水害(1995年7月11日) 蒲原沢土石流災害(1996年12月6日)	平成7年(1995)7月11日、梅雨前線豪雨により、姫川流域全体で土石流等が発生した。支流の蒲原沢でも大規模な土石流が発生し、平成6年(1994)11月に完成した新国界橋が流失した。また、平成8年(1996)12月6日に再び蒲原沢で土石流が発生し、1995年の災害の復興、復旧工事に携わっていた14名が死亡した。	P73 F-5		
4 勝山大雪崩遭難碑	1973	新潟県糸魚川市青海(国道8号沿い)	勝山大雪崩災害(1922年2月3日)	大正11年(1922)2月3日、糸魚川市の北陸本線(現:えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン) 親不知~青海駅間の勝山トンネル西口で雪崩が発生し、走行中の列車が巻き込まれた。列車には近隣の除雪作業員らが乗車しており、乗員乗客200名のうち、90名(一般乗客1名、除雪作業員88名、鉄道職員1名)が犠牲となった。日本国内で発生した雪崩による鉄道事故としては、現在に至るまで史上最大の惨事である。	P76 A-1		
5 勝山大雪崩慰霊碑	1937	新潟県糸魚川市歌(旧北陸本線沿い)			記載なし		
6 勝山大雪崩殉難碑	1923	新潟県糸魚川市蓮台寺937(七社境内)			P63 F-3		
7 親不知殉難碑	1923	新潟県糸魚川市大和川979(國造神社)			P48 C-1		
8 大正十一年二月三日親不知殉難君碑	不明	新潟県糸魚川市能生小泊			P37 F-1		
9 外波水害復興記念碑	1972	新潟県糸魚川市外波315(外波児童遊園)			外波水害(1969年8月9日)	昭和44年(1969)8月9日未明の局地的な集中豪雨(午前0時から7時までの累計降雨量211.5mm)により、糸魚川市外波川などの中小河川が氾濫した。濁流は土石を伴い鉄砲水となって集落を襲い、死者2名、重軽傷者72名、住宅流失12棟、住宅全壊55棟、半壊82棟など、集落の全戸が被災する大災害となった。	P78 C-3
10 県道山之坊大峰小滝線開設記念碑	1997	新潟県糸魚川市小滝(大峰大地蔵尊脇)			7.11水害(1995年7月11日)	平成7年(1995)7月11日未明、長野県北部と新潟県上越地域で大雨が降り、姫川と関川流域で斜面崩壊や河川氾濫などが相次いだ。姫川流域の蒲原沢では平成6年(1994)11月に完成した新国界橋が流失し、国道148号が不通となった。災害の2カ月後に、国道の代替道として県道山之坊大峰小滝線が緊急開設された。	記載なし
11 戸倉山雪崩白池地蔵	不明	新潟県糸魚川市大字山口			戸倉山雪崩(1825年2月4日)	文政7年12月17日(1825年2月4日)、戸倉山で大規模な雪崩が発生した。当時、戸倉山のふもとの白池には松本街道(塩の道)の歩荷宿があり、雪崩に巻き込まれた21名が犠牲となった。その供養のため宿跡に建立された白池地蔵は、昭和46年(1971)に同市内の山口開所跡付近に移された。	P69 E-3
12 小泊地すべり災害百霊廟	1966	新潟県糸魚川市大字能生小泊	小泊地すべり災害(1963年3月16日)	昭和38年(1963)3月16日16時20分頃、糸魚川市小泊地区で大規模な地すべりが発生した。地すべりの土塊は、国道8号沿いに密集している民家、旧北陸本線を走っていた蒸気機関車を飲み込みながら海まで流出した。この地すべりにより、死者行方不明者4名、負傷者19名、全壊30戸の被害がでた。	P37 F-1		
13 地に惨死者之碑	1928	新潟県糸魚川市大字大洞	大洞地すべり災害(1927年2月14日)	昭和2年(1927)2月14日、糸魚川市大洞地区で急激な融雪による地すべりが発生した。幅約200m、長さ約400mにわたる地すべりにより、民家17戸と地蔵堂が倒壊し、12名が死亡したほか、耕地や家畜等にも大きな被害が及んだ。「融雪型地すべり」が全国的に広く認知されるきっかけとなった。	P32 A-3 P35 G-4		